

組合員とともに、地域社会とともに

組合員参加の活動

組合員のくらしの願いを実現するために生協は存在します。商品や事業の利用とともに、ご意見など「声」を出していただくことが、生協への参加の第一歩です。

会員生協では、「食卓の向こう側」を知ろうと、産地・工場見学、生産者との交流・学習、農業体験などを企画し、子どもたちも含め年間約2万8,000人が参加しています(2010年度)。こうした消費者としての学びの場をはじめ、子育て世代が集える場、高齢者などのくらしの援助をする組合員どうしの助け合いの輪、家庭でできる環境活動など、いつまでも安心してくらす社会を築いていくための場や機会を、組合員自身がさまざまに広げ、また地域の諸団体や行政などとのネットワークを作っています。



環境・社会貢献活動

コープネットは、地域社会のパートナーとして、会員生協や日本生協連とともに、環境配慮・社会貢献への取り組みを進めています。

環境基本政策

コープネットグループは、日本生協連と同期を取り、将来にわたって持続可能な社会を実現していくために、2012年度までの「地球温暖化防止自主行動計画」を発展させ、2011年1月に「2020年にむけた環境基本政策」を策定しました。

この基本政策では、温室効果ガスの総量削減、商品事業での環境配慮、廃棄物の削減・リサイクルの取り組み、組合員とともに進める環境保全活動、地域諸団体・行政との協同による環境保全活動を主な柱としています。

エコセンター

組合員から回収した食品トレーや牛乳パック、卵パックなどの資源物を減容・圧縮する施設です。カーボンオフセットを導入してCO₂の排出量をゼロにしました。また、物流センターに戻るトラック(帰り便)で資源物を運搬することで、CO₂排出量を抑制しました。



募金活動

災害地域への緊急募金、世界の子どもの命を守るためのユニセフ募金、平和のための募金などに積極的に取り組んでいます。

東日本大震災では、組合員から5億円を超える募金が寄せられています。



コープマークの牛乳一本につき1円をユニセフに募金して、アフリカ・モザンビークの子どもたちへの栄養プログラムを支援する「ハッピーミルクプロジェクト」
※2011年10月からは「ハッピーミルクプロジェクト+ (ぶらす)」として継続しています

東日本大震災の支援活動

2010年3月に発生した東日本大震災では、日本生協連の呼びかけにこたえ、全国のコープとともに、被災地への支援物資のお届けをはじめ、現地生協の事業再開支援や、被災した組合員宅の訪問活動など、人的支援も進めてきました。また、会員生協は地元自治体との災害時支援協定に基づき、食料や飲料、日用品などを支援物資としてお届けしました。



生物多様性を守る —商品利用を通じた自治体との取り組み—

日本を、食卓から元気にしたい。

コープネットとコープにいがた、新潟県佐渡市は2010年4月、佐渡のトキ保護活動の応援を目的とした連携協定を結びました。「CO・OP新潟佐渡コシヒカリ」を対象に、販売したお米1kgにつき1円を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキのエサ場になる田んぼづくりに役立てます。

2010年7月には、コープのもずくの産地の一つ、沖縄県伊平屋村の環境を守り、もずくの生産活動を支援することを目的に、「コープネット『沖縄もずく』美ら島応援プロジェクト」を立ち上げ、伊平屋村などと覚書を結びました。対象のもずくを購入すると、1点につき1円が「コープネット美ら島応援基金」に寄付され、伊平屋村の環境保護活動、もずくの利用拡大、生産者と生協組合員との交流活動に使われます。

